

# 井伊直虎

次々とおそろい苦難にも、決してあきらめなかつた女城主



## ◆井伊氏と井伊谷

女城主・井伊直虎、徳川四天王の一人井伊直政、そして江戸幕府の大老井伊直弼などを生んだ井伊氏は、平安時代中期から戦国時代のおわりに彦根へ移るまでの約600年の間、遠江国井伊谷(静岡県浜松市北区)を治めていました。井伊氏の初代当主・井伊共保は、寛弘7年(西暦1010年)に井伊谷の龍潭寺(井伊氏の菩提寺)付近にある神聖な井戸で誕生したといわれ、共保以降、井伊氏は井伊谷を本拠地として勢力を伸ばしていきます。南北朝時代には、後醍醐天皇の皇子・宗良親王を守り、南朝方として戦いました。

## ◆直虎の幼少期

井伊直虎(幼名不明)は、戦国時代の中頃(西暦1536年ごろ、正確な生年は不明)に、駿河の大名、今川義元の家臣で井伊谷の国衆・井伊直盛の娘として生まれました。直虎以外の子がいない直盛は、分家の男子である亀之丞のちの井伊直親を後継ぎと決め、直虎と亀之丞は幼くして二人とも8歳前後に婚約します。将来を約束した二人は、しばらくの間仲睦まじく暮らしていました。しかしその後、直虎に次々と苦難がおそいかかります。

## ◆苦難その1 許婚と離ればなれに

二人の婚約を快く思わない井伊氏家老の裏切りにより、亀之丞の父で直虎の大叔父でもある井伊直満が、今川氏に対する謀反を疑われ殺されてしまいます。謀反人の子とされた亀之丞にも危険が迫ったため、龍潭寺の南溪和尚の手引きにより、亀之丞は信濃長野県野原の寺に身を隠します。亀之丞の安否は秘密とされ、何も知らない直虎は幼少の頃に出家し、「次郎法師」と名乗ることになります。

## ◆苦難その2 許婚が戻るも結婚はできず

信濃で10年を過ごした亀之丞は、井伊谷に戻ってきました。亀之丞は、直盛の養子となり、名を井伊直親と改め井伊氏の家督を継ぎます。しかし、直虎は出家しているため直親と結婚することができず、直親は別の女性と結婚してしまいます。

## ◆苦難その3 父が桶狭間で戦死

父・直盛が桶狭間の戦いで、今川義元とともに戦死します。跡を継いだ今川氏真に義元ほどの力はなく、今川氏に従っていた遠州の国衆たちは、今後どの大名につくべきか動揺します。

## ◆苦難その4 元許婚と曾祖父も命を落とす(遠州急劇)

直親が「三河の徳川家康と手を組み、今川を裏切ろうとしている」と疑われ、弁明のため駿河に向かう途中、今川氏の家臣に殺されてしまいます。これをきっかけに遠江の国衆たちの主君・今川氏に対する不信は一層高まり、この後数年間、遠江一帯は各地で争いが多数発生し、大混乱に陥ります。この大混乱は、遠州急劇※1と呼ばれ、直虎の曾祖父である直平や井伊氏の主な家臣もこの時期に戦死します。

## ◆存亡の危機に直虎が立ち向かう

一族の男子を相次いで失い、井伊氏に残された男子は、まだ生まれたばかりの直親の子・虎松(のちの井伊直政)だけとなってしまいました。井伊氏存亡の危機に、次郎法師は名を井伊直虎と改め、一族を率いていくことを決意します。

## ◆女城主(女地頭)の奮闘

井伊谷の城主(地頭)となった直虎に、今川氏は徳政令※2を認めさせるように迫ります。徳政令を出せば、井伊谷の寺社や商人は破産。今川氏のねらいが井伊谷の経済を混乱させ、井伊氏から井伊谷を奪うことと見抜いた直虎は、巧みな交渉力と内政手腕を発揮し、徳政令の施行を2年間引き延ばします。その間に様々な手をうち、徳政令による混乱を最小限に抑えることに見事成功します。しかし、直虎の奮闘も及ばず、永祿11年(西暦1568年)の秋、今川氏は徳政令実施の文書に署名をさせ、ついに井伊氏は井伊谷の領地を失ってしまいます。

## ◆井伊氏復活のために

領地を失った直虎ですが、あきらめず井伊氏復活の機会を待っていました。徳川家康が遠江の新たな支配者となると、かつての許婚の子・虎松が家康に仕えることができるよう策を練ります。そして、苦しい生活の中、15歳となった虎松に立派な衣服を用意し、鷹狩りの道中の家康を待ちます。家康は、凛々しい虎松の姿を一目見て気に入り、またかつて今川配下とともに戦った井伊氏の遺児と知って虎松を手厚く迎え入れます。

## ◆直政の活躍と直虎の晩年

家康に仕えた虎松は、異例のスピード出世を果たします。元服し、名を井伊直政と改めたのち、徳川四天王や、井伊の赤鬼と呼ばれるほど戦場で目覚ましい活躍を見せるとともに、難しい外交交渉をたびたび任されるなど抜群の政治手腕も発揮しています。この政治手腕は、直虎から受け継いだものかもしれません。直政は、関ヶ原の合戦後、近江国佐和山18万石(のちの彦根藩)を与えられ、見事、直虎の念願、井伊家再興を果たし、譜代大名筆頭として大老を輩出するなど江戸幕府で重きをなした彦根井伊氏の基礎を築きました。直虎は、直政の活躍を井伊谷の地で見守り、直政が22歳になった西暦1582年にこの世を去りました。暮は龍潭寺にあり、かつての許婚・直親の隣で静かに眠っています。



没年

女地頭

誕生はこの頃?

- 1534 織田信長、尾張で誕生
- 1542 21代直宗、田原城攻めで戦死
- 1544 直満、直義、今川義元に誅殺
- 1549 直満の子・亀之丞、信州松源寺へ逃げる
- 1554 徳川家康、今川家の人質となる
- 1556 今川・北条・武田の三國同盟成立
- 1558 亀之丞(井伊谷へ戻り)
- 1560 井伊直親(なおちか)と名乗る
- 1562 22代直盛、桶狭間の戦いで戦死
- 1564 桶狭間の戦いで、織田信長が今川義元を破る
- 1566 直政(幼名虎松)誕生
- 1568 直政(幼名虎松)誕生
- 1571 直政(幼名虎松)誕生
- 1573 直政(幼名虎松)誕生
- 1575 直政(幼名虎松)誕生
- 1577 直政(幼名虎松)誕生
- 1579 直政(幼名虎松)誕生
- 1581 直政(幼名虎松)誕生
- 1583 直政(幼名虎松)誕生
- 1585 直政(幼名虎松)誕生
- 1587 直政(幼名虎松)誕生
- 1589 直政(幼名虎松)誕生
- 1591 直政(幼名虎松)誕生
- 1593 直政(幼名虎松)誕生
- 1595 直政(幼名虎松)誕生
- 1597 直政(幼名虎松)誕生
- 1599 直政(幼名虎松)誕生
- 1601 直政(幼名虎松)誕生
- 1603 直政(幼名虎松)誕生

## 直虎をめぐる井伊氏 関係図

※井伊氏当主の歴代数は諸説あります



◆井伊直虎の花押※縁前神社文書より

※1 急劇(そうげき)：非常に騒がしいという意味  
 ※2 徳政令：領民の借金を帳消しにする命令  
 ※3 文書内容には諸説あります